



# chapter #04

## あふれる情熱、感動

### OVERFLOWING PASSION, AWAKENED EMOTION

熊谷 駿(くまがいしゅん)さん 仙台高専、甲陽音楽学院(神戸市)を経て、米国のパークリー音楽大を卒業、ニューイングランド音楽院大学院修士課程を修了。全国規模のコンサートを継続開催するほか、仙台の「ライブレストラン」Zの音楽プロデュースなども手掛ける。仙台市出身



少年時代は柔道にも力を入れた。中学では東北大会に出場。全国高専大会では優勝を果たした

感動を与えられるサクソプレーヤーになりたい。仙台市のサクソ奏者熊谷駿さん(34)が中学3年の時に立派な志を胸に、飛躍の時を迎えている。紆余曲折を経てプロ活動10周年のコンサートに成功させ、海外公演にも挑戦。ジャズの魅力を広めようと邁進する。

## 仙台から世界へ羽ばたく

### サクソプレーヤー熊谷駿の軌跡



音楽専門学校を卒業後、単身渡米した熊谷さん(左)。当初はコミュニケーションに苦労したが、ジャズの本場で学びを深め、多くの友人にも恵まれた

1月下旬、泉区の仙台銀行ホール・イマシアティ21。プロ活動の集大成と位置付けたコンサートの大観衆の熱気に包まれた。音楽専門学校時代の恩師らとバンドを組み、定番曲「ダニー・ボーイ」や若手県陸前高田市の「奇跡の一本松」に着想を得た「マツ」、ジャズ風にアレンジした情熱大陸 など計15曲を演奏。力強い音色から都会的なサウンド、しなやかな和風の旋律まで多彩な音響かせた。子ども、家族連れ、高齢夫婦…。ステージから約1000人の観客を見渡し、感慨深げに語った。この10年やってきて良かった。たくさんの方に聴いてもらえるのはとてもうれしい。太田区八木山に育ち、10歳でサクソスを習い始めた。部活動の柔道部を引退し、受験勉強をしていた中3の秋の夜、偶然テレビで見たビッグバンドの演奏に心を打たれた。「すごくかっこいい」。サクソプレーヤーを目指そうと心に決めた。仙台高専から甲陽音楽学院(神戸市)を経て、ジャズの本場・米国へ渡った。父の「本気でプロになりたいなら本場に行け」という言葉が後押しした。「TOMODACHIサントリイ音楽奨学金」を活用して2014~19年、名門パークリー音楽大とニューイングランド音楽院大学院で、ジャズの実践の研鑽を積んだ。実技やアンサンブルの授業は楽しく、次第に友人もできたが、当初は言葉の壁にぶつかり極度のホームシックになったという。帰国後の活動拠点には仙台を選んだ。高専生だった11年の東日本大震災発生当時、音楽で古

## 「未来」を響かす調べ

Melodies that resonate with the present and future



笑顔が絶えない元気の仲間

### 「熊さん」コーチの和気あいあい小学生ジャズバンド

仙台市のサクソ奏者熊谷駿さんは後進の育成にも力を注ぎ、仙台市八木山小(太白区)の児童でつくるビッグバンド「夢色音楽隊」の指導に当たっている。現在のメンバーは小3~小6の計37人。平日朝と土曜に練習に励み、地域イベントなどで活動している。バリトンサクソスを担当する庄司夏規君(9)は「みんなで演奏して音を合わせるところが楽しい」と話す。ベースを担当する藤本悠さん(10)は「熊谷さんは優しく練習をサポートしてくれる。将来はいろんな楽器を弾いてみたい」と目を輝かせる。3月21日には八木山小体育館で2025年度の卒業演奏会を開く予定。連絡先は yumeiro.yagiya@gmail.com

里に貢献できずに不甲斐なさを感じた経緯もあり、僕が学んだジャズを届け、仙台を盛り上げようと思った。そうした意気込みとは裏腹に、プロ生活はほろ苦い船出となった。地元仙台で開いた最初のコンサートの観客は約180人で、そのうち約8割が身内。名門音楽大を出てもチケットが売れない現実には衝撃を受けた。心が折れかけた経験もある。チケット発送から音響・照明の手配、当日の進行まで自らこな

し、集客を増やしていた20年。新型コロナウイルスが猛威を振るい、コンサートもライブもできなくなった。「当たり前だと思っていた日常の大切さを実感した」。それでも音を届けようと、オンライン公演やオリジナルアルバムの制作、サクソス教室でのレッスンに取り組んだ。プロ活動10周年の今年は、12月を目標に台湾で自主企画のコンサートを開き、アジアに進出する書き真を描く。「ジャズは大衆的な音楽。ファンを裾野を広げたい。節目の年に、仙台から世界へと羽ばたく。」

もっと広く、もっと身近に

宮城県石巻、東松島町と女川町の小中高生でつくるバンド「石巻ジュニアジャズオーケストラ」が地域に明かりをともしている。東日本大震災発生から間もない2012年に始動し、被災地を中心に観客らを勇気づけてきたメンバーは「演奏を通して多くの人に元気を届けたい」と意気込む。

## 石巻に響く元気な音楽

### 被災地で笑顔で音楽活動を続ける

石巻市の石巻中央公民館で2月上旬、地元町内会の新年会が開かれた。オープニングにバンドのメンバー約20人が出演し、「バードランド」「シンク・シンク・シンク」といったスタンダードナンバーを上を向いて歩

「いろいろな年齢や性格、楽器のメンバーが合奏し、一体感が生まれる感じが好き。自分が演奏するステージで元気になることができる方々がいるのは幸せなこと」と、やりがいを見しめる。バンドは19年6月発足。復興

## 被災地の「今」と

Melodies that resonate with the present and future



誰かのパワーになりますように



④力強くトランペットを吹く安倍さん  
⑤バンド結成直後、地元のトリコロレ音楽祭に出演したメンバー

に奮闘する人々を元気づけようと、石巻市内で音楽活動に関わる小学校教諭ら有志が計画した。震災で楽器を失いながらも活動を続けていた宮城県気仙沼市のジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」にも刺戟を受けたという。当初のメンバーは初心者や吹奏楽部員らで小学5年~高校3年の計18人。サクソやトロンボーン、ピアノ、ドラムなど多くの楽器が寄贈され、大切に使いながら練習に励んだ。地元の定期演奏会やトリコロレ音楽祭のほか、仙台市中心部が舞台となる定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどで各地で演奏を展開。15年3月11日には東京のチャリティーコンサートで、世界的なドラマー神保彰さんとの共演も果たした。震災発生から15年。近藤さんは、震災後に生まれたメンバーもいる。震災がきっかけでバンドができたことを伝えつつ、郷土愛のある子どもを育み、学校で辛いことがあっても元気になるような場所として残したいと語る。事務局兼コーチで妻のまゆみさん(45)は地域の方々におおほのジュニアジャズ」と言ってもらえるやりがいと喜びを語り、

バンドの草創期を知る現事務局兼コーチの近藤哲也さん(45)が振り返る。「子どもたちが人前で演奏すると、ものすごい威力があった。殺伐とした空気が流れていた被災地に、にぎやかな音楽が鳴り響き、お年よかな方ほど喜んでくれた」。現在は小学5年~高校3年の計24人が活動し、バンドを卒業した先輩も後輩を支えている。楽曲のレパートリーはジャズの定番からティーン音楽、昭和歌謡まで幅広い。石巻市青葉中3年安倍標さん(15)は中1の時、友人の勧めでバンドに入り、トランペットを担当している。「気が合う仲間が多く、みんなでまとまって演奏できるのが楽しい。高校に入ってもジュニアジャズで活動を続けたい」と笑顔を見せる。



アルトサクソスを手にする杉浦さん。バンドには各地から多くの楽器が寄贈され、震災発生から15年がたった今も大事に使っている



# chapter #05

## 自分らしく、響け

### FIND YOUR OWN SOUNDS

赤いベストに身を包み、ステージで演奏する石巻ジュニアジャズオーケストラのメンバー。住んでいる地区も学校も学年も異なるが、みんなで仲良く楽しく活動している



### 石巻ジュニアジャズオーケストラ「Swing Liberty Pirates」

メンバーの条件は宮城県石巻、東松島町と女川町に居住または通学する小学5年~高校3年。募集パートはアルトサクソ、テナーサクソ、バリトンサクソ、トランペット、トロンボーン、ギター、ピアノ、ベース、ドラム。演奏技術は問わない。原則週1回、日曜の午後1~4時に石巻市の石巻中央公民館で練習している。県内外で演奏活動を続けており、3月29日には女川町生涯学習センターで「Spring JAZZ Live 2026 in 女川」を開催する予定。ステージ出演の依頼や問い合わせ、楽器の寄贈はメールで受け付けている。連絡先はinfo@swinginstone.com